

キャリアに拓く 3年生の活動

訪問先 農学部の先生

鳥取大学附属小学校では、大学附属という環境を生かして子供のキャリア形成を目指していく活動、「キャリアに拓く」を実施しています。3年生の活動の様子を紹介します。

社会科や総合的な学習の時間の学習と関連させ、湖山池の成り立ちや人々の関わりについての話を聞きました。湖山池が抱えていた環境問題やそれを改善するための努力や工夫を知ること、また、環境改善に関わった人々の思いに触れることで、自分の生活を振り返ったり将来の自分の行動を考えたりすることをねらいとして学習を行いました。

「キャリアに拓く」の学習の前に、総合的な学習の時間で湖山池情報プラザの方にお話をうかがった際、子供たちは湖山池の生物や伝説について大変関心をもちました。その後、子供たちは湖山池がどのようにできたのか、湖山池の水はきれいなのか、現在はどのような生き物が住んでいるのかなど、様々な疑問をもちました。

そこで、「キャリアに拓く」の学習で、地形や地質を専門としておられる農学部の先生にご来校いただき、湖山池の歴史や環境について詳しく話をさせていただきました。まず、湖山池がどのようにしてできたのか、年代を追って千代川、湖山川、湖山池の変化の様子を見せてもらいました。そのお話から、湖山川が何度も工事されて形が変わっていることが分かり、なぜ形を変えて整備されなければならなかったのかを知ることができました。子供たちは、湖山川が変化をしていく中で、湖山池の環境が変わり、かつて生息していた生物が絶滅したことは知っていましたが、詳しい背景については知らない子がほとんどでした。そこで今回、アオコが発生して環境が一変した際、それを駆除するためにどのようにしたらよいのかというお話では、子供なりに考えを巡らせながら興味深く話を聞きました。

お話の中で、淡水に海水を入れるとどうなるかを分かりやすくするために、水に塩水を入れる実験を行いました。水と塩水に、それぞれ異なる色を付け、水に塩水を注いでいきます。そうすると、塩水の方が比重が大きく、どんどん下の方へと溜まっていくことが色水の層で視覚的に分かります。この実験で、淡水の湖山池に海水を入れてアオコの発生を防いだことがイメージでき、分かりやすくなりました。しかし、アオコの発生を防ぐことは、同時に一部の生物を絶滅させてしまうことになったと聞き、生物が絶滅した理由には、このような背景があったのだと初めて知ることができました。そして、きれいだと思っていた湖山池の環境には、このような歴史があり、努力や工夫によって環境が守られていると分かりました。

最後に、人間が環境を変えるときは、自然のペースに合わせてゆっくりとゆるやかに変えていくことが大切だと教えていただきました。人間の都合で環境を変えていくと大変なことが起きてしまうと子供たちも感じたようです。また、先生が、今なお様々なことを研究されていると聞き、子供たちは湖山池への疑問を新たにもったり、環境を守るために自分たちにできることは何かを考えたりすることができました。先生の研究に対する思いや生き方に触れることで、身近な湖山池に愛着をもつだけでなく、自分の生き方に夢をもち、探求心を高め、視野を広くもつという気持ちをもつことができた学習でした。

